こどもまんなかラウンドテーブルのイメージ

課題

こどもの課題　虐待　居場所　不登校　貧困　※改めて協議が必要

団体の課題　人材　場所　資金　ヘルプ　◎前回のワークショップのテーマ

仕組み・体制

◎前回のワークショップのテーマ

① コアメンバー打合せ…ラウンドテーブルの開催・運営
② ぷちラウンドテーブル（分科会）…テーマごとの協議・連携・実施
③ ラウンドテーブル（全体会）…全体協議、課題協議、分科会報告

公開　共有　見える化　フィードバック

テーマ

◎前回のワークショップのテーマ

① 情報発信（ホームページ）
② こどもの声を聞く
③ 団体支援MAP
④ 団体紹介Book（データーベース化）
⑤ コーディネーター（団体間）
⑥ コンシェルジュ（こどもと団体）
⑦ 団体交流会・イベント
⑧ 講演会・研修会
⑨ 団体への支援・サポート
⑩ 行政・民間の意見交換会　等

ワークショップから見えてきた具体的なテーマ

予定

第１回ラウンドテーブル（9月15日）
全体会
分科会（テーマA）
分科会（テーマB）

第２回ラウンドテーブル（12月）
全体会（こどもの課題）
分科会（テーマC）
分科会（テーマD）

第３回ラウンドテーブル（２月）
全体会（テーマA～Dの状況報告・R7予定）

コアメンバー紹介

福本 佳之 さん
認定NPO法人　チャイルドラインとちぎ理事長

飯野 佳昭 さん
小山市立大谷北小学校PTA会長

中山 麗美 さん
NPO法人　笑光(こども食堂) 理事長

高橋 弘美 さん
NPO法人　子どもの育ちを支える会
さくらネット小山　理事長

膝附 政江 さん
西真岡こどもクリニック幼保・学校連携医療部スタッフ
元羽川小学校校長

第１回

小山市
こどもまんなか
ラウンドテーブル

今日の流れ

13:30～16:00

01	ワークショップ結果報告と今後の展望	10分
02	コアメンバー紹介	2分
03	開会宣言	3分
04	休憩　13:55～14:05	10分
05	ぷちテーブル	75分
06	休憩　15:20～15:30	10分
07	まとめ（全体意見共有・講評）	30分

小山市
こどもまんなか
ラウンドテーブル

ワークショップ
結果報告
＆
今後の展望

7月19日 ワークショップ（プレイベント）の様子

参加者数：５８名（傍聴者含む）

＜グループワーク＞
テーマ①：支援の現場で感じる“ちょっとした困りごと”は？
テーマ②：“聞く・語る・つながる”ラウンドテーブルをデザインしよう

活発な
意見交換等

こどもまんなかラウンドテーブル　ワークショップ まとめ

こどものウェルビーイング
こどもまんなか

情報

今回のテーマはココ！

調査

・市民、団体間のニーズを明確にし、各団体の強みを生かす

・親・子に対する統一したアンケート
・実態調査、ヒアリング方法の統一
・親のチーム作り（地域や課題、分類）声をきく

こどもの意見

・こどもの声、意見を聞く
・こどもからの要望の集約

意見の聞き方
・SNS、対面
・こどもの意見を聞く機会作る
・こども会議
・こどもわっかトーク（対話会）
・こどもアドボケイト※1

大人主体で考える
・こどもの言葉を持ち寄れる場所
・こども目線意見交換会

相談者

SNSからの相談が多い

情報発信

案
・AIチャットの活用
・市公式LINEのリッチメニューにラウンドテーブルを追加
・SNS、チラシ、PR
・ゆるキャラ
・活動PRタイム

展開
・地域、家庭、学校に広げる

課題
・情報が届かない（全年齢、発達支援含む）
・情報が分からない
・ネット未利用者への対応
・集客
・チラシの配布

行政情報
・周知していても隅々まで伝わってこない。

要望
・各団体訪問のツアー企画するので広報してほしい

課題
・メンバーの募集
・活動告知・周知方法が上手くできない

情報の集約・分類

・支援団体の情報のデータベース化（各団体の強み）
・支援団体MAP、相関図作成
・専用サイト作成
・Q＆A対応
・他自治体例

情報共有

案
Q＆A方式
類似団体で分科会

方法
・グループLINE等
・異種・同種で話し合い

内容
・事例研究、対応方法、好事例、対象年齢・時期別の活動、自治会情報、高齢者のサポート情報

他団体との連携・交流・つながり

・課題の発見
・自由に集まり意見が言える場所
・知恵を出し合う、たたえあう
・横のつながり
・活動共有
・定期的な情報の交換
・イベントの企画団体同士でつながれる場を作る

専門機関・市・学校との連携

課題
・市、児相、訪看、放デイ、学校、病院との連携
・公教育と市民活動が乖離
・CSWがいない※2

要望
・こどもの居場所シリウスにいる子の話合いに団体・行政・社協・学校の方が参加
・他機関とつながりたい

こども

こどもへの情報発信

情報発信
・分かりやすいサービス一覧
・こどもへの団体紹介、プレゼン

課題
・活動情報を届けられない。届かない。

具体的事例
・人権侵害を耳にした時の対応
・オレンジリボンの周知の場所

希望
・多くのこどもに知って欲しい。

こどもの活動

・こども自ら支援団体のイベントになかなか参加できない。
・こどもが関われる仕組み

こどもを理解・尊重

・こども主体の場
・小山市こども権利条約制定
・こどもの利益を一番に考える
・こどもの一人ひとり対場の理解

こどもからの相談

課題
・こどもの声が届きにくい
・支援の相談先が分断されている

環境
・こどもが相談しやすい環境づくり
・こどもの悩みや困りごとを聞いてくれる存在。

相談場所
・お悩みコーディネーター、こども用のコンシェルジュの設置

今回のテーマはココ！

ラウンドテーブルが目指してほしいところ

基本的な運営
・官民連携
・ワークショップ等の事後経過の可視化・公開、見える化
・YouTube配信等ひらけた会
・定期的開催、情報交換、交流、つながり

組織
・どの団体も最初の問題の窓口となり必ず適切なところへつなげられるシステム
・各地域のコミュニティセンターとの円滑な情報共有
・研修会によるスキルアップ

市民への支援
・コーディネート
・悩みごとのコンシェルジュ
（相談窓口、ワンストップで解決窓口、マッチング、こどもの相談場所）

情報の集約・分類
・支援団体MAP

情報共有・他団団体との連携
・横のつながり
・事例研究
・グループLINE等

情報発信
・こども関係活動をシェア（PR）できるサイト
・HP、SNS等

団体を支援する仕組み作り
・ボランティア人材登録制度作成（各団体のスタッフ不足を補う）
・各団体の資金不足を補う
・活動で足りないところを補い合える場（ヘルプ機能）マッチング
・活動紹介の場

市民の窓口
・市民が困ったら連絡できる場所
・気軽に行けるところ
・行かなくても繋がれる場
・居場所

行政との窓口
・行政提言対話の場
・行政の各セクションにつなぐ
・関連行政部門との対話会（定期的に）

学校

不登校

・出席確認の負担
・フリースクールと学校の連携の必要性
・学校へ行っていない子への学習
・不登校相談
・フリースクール（アルカディア）への送迎

・小学校入学後のサポートをするスタッフが不足
・休み時間の外遊び
・PTAへの非加入希望者対応
・PTA活動に協力的でない保護者の増加
・支援しようとする際の学校のルール
・学校ボランティア、中学校は少ない
・支援学級の対応の難しさ
・学校の選択制への期待

地域

・育成会への非加入（自治会）
・向こう３軒両隣の良い所を活用する（おせっかい過ぎない程度）
・地域でこどもを育む意識

コロナ

・人との交わり、経験値の減少
・親同士の交流機会の減少
・ゲーム・スマホの時間の増加

・学校と地域の距離
・見守る側の高齢化

外国籍

・栃木県に外国人入試枠のある県立高校が１つもない
・外国人児童・生徒・若者の基礎学力不足

・外国ルーツ、文化や生活、考え方、言語の違い
・外国籍の方の対応・説明、支援の難しさ

こどもの預け場所

・気軽に預けられる場所がない

こどもの居場所

・こどもの家庭以外での居場所
・低学年の居場所がないor少ない
・長期休み土日等の居場所
・自由な遊び場
・学びの場が少ない
・市立体育館への期待
・中学生の居場所

児童館
・児童センターへの期待。

支援側
・こども支援の拠点をつくる場

放課後デイサービス

放課後デイサービスへの期待

保育

・柔軟な幼稚園、保育園、学校の選択
・柔軟な保育園（所）サービスの対応

場所

マッチングの場

・困りごと解決
・こどもをとりまく困りごとマップ
・悩みを解決するため、ちょっとづつ解決できるよう隙間を埋める人
・コンシェルジュの設置

イベント

・多様な学びフェス
・ゆめまちでこども食堂と学びの教室を同時期に実施
・商工団体と連携し小山キッザニア
・全体が出展するイベント開催

活動の場

・活動場所が狭い、ない。
・活動場所がほしい。
・活動場所の共用スペース（下駄箱）が春夏冬休み中に混雑するため不便
・物品の保管場所がない。
・棚がほしい。
・施設の利用料が高い。
・市民交流センターへの期待
・イベント（有料）の場所が確保しづらい
・和式トイレを洋式にしてほしい。
・ママと一緒のトイレがほしい。
・受け皿が少ない
・場所で人数が決まってしまう。

交流の場

・地域の人も子育てに参加
・気軽に相談できる場
・一人にさせない子育て
・親の交流の場、機会

イベントの開催
・親たちが交流するイベント企開催し悩みの共有やつながりを作る。

ケアの場

・市内に発達障害の子が受診できる病院がない（少ない）
・虐待を受けた子、自立援助ホームにいるこども達、虐待してしまう親の心のケアをしてくれるところがない。

支援団体

運営

・支援者の相談場所
・運営方法の不安
・活動を継続する方法
・維持などの問題

スタッフ

課題
・高齢化（送迎が大変）
・スタッフ不足
・支援のレベルの違い
・支援者の心の余裕
・活動時間
・メンバーの固定化
・後継者不足
・スタッフの時間調整
・キャパオーバー
・人材発掘、人材確保
・人材育成

人員確保手段
・人手が必要な時に手伝いにいけるプラットフォーム

資金

案
・協賛企業の募集（参画）
・ラウンドテーブル等プロジェクトグッズの作成販売
・クラウドファンディングの実施
・要望書の提出

情報共有
・NPO団体活動資金補助の情報

要望
・活動資金の補助の増加
・人件費補助
・事務局サポート

実情
・資金不足

課題
・助成金の申請
・非営利の考え方
・残業代
・活動費の使用方法の制限

※1 こどもアドボケイト：
子どもアドボカシーとは、子どもが意見や考えを表明できるようにサポートする人。代弁者。

※2 CSW：
コミュニティソーシャルワーカー。地域住民の生活課題の解決を支援する専門職。
相談援助、関係機関との連携、地域活動の支援などを行う。

こどもまんなかラウンドテーブルのイメージ

目標(ゴール)

こどもの
ウェルビーイング

こどもまんなかのまち

こどもの声を聞くまち → こどもが発信するまち

市民全員参加

・具体的な数値目標を設定
・時間をかけてラウンドテーブルで考える

目指す

ラウンドテーブル

みんなが集まって
みんなで話して
みんなで取組む

全体の
まとめ役

情報を集約し
発信する場

民間支援団体　企業　個人　地域　学校　行政

① 情報交換・課題の共有・・・・・様々な情報が得られ、共通・優先課題が見えてくる。
各支援活動の充実につながる。

② 課題解決に向けた検討・連携・・団体のつながりが生まれ、連携した取組み・支援ができる。

③ 市の施策についての意見交換・・民間側の意見を反映することで、施策の効果が高まる。